薩摩町永野別府原古墳群

【所　在　地】薩摩郡薩摩町永野別府原
【種　　別】県指定史跡
【指定年月日】昭和 46 年５月 31 日

地下式板石積石室墓

別府原古墳群は薩摩町永野の川内川支流の穴川右岸で標高 160m の緩やかな傾斜地にある。農作業中に発見され，昭和 42（1967）年に発掘調査が行われ，６世紀頃の地下式板石積石室墓が６基確認された。

地下式板石積石室墓は地下に竪穴を掘り，安山岩または扁平な河原石 10 ～ 14 個を用いて円形または方形の石室を設けて死体を安置し，土をかぶせ板石で覆った後，さらに全て土で埋めてしまい地表に標識を残さない南九州独特の埋葬法である。石室の内径は 110 ～ 157cm で屈葬と思われ，頭位にあたる石室の部分には丹塗りのものもある。副葬品は，全て武器で短剣，長剣，鉄鏃等が１号墳，３号墳，６号墳から確認されている。

この種のものは，熊本県南部から川内川流域に分布の中心があり，群集墳を形成するのが特色である。